

子宮頸部上皮内がん(CIS)術後連携パス

子宮頸部高度異型性上皮(CIN3)術後連
携パスについて

大阪医科大学附属病院

パスの目的と役割

【目的】

- * 地域の医療機関(かかりつけ医)とがん拠点病院とが連携して、治療と経過観察を行なっていくことで、がん患者の治療の質・生活の質の両方の向上を図る。

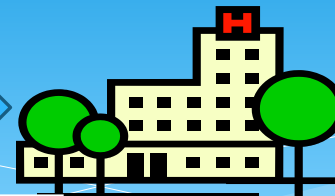
【概略】

- * がん診療連携拠点病院で、手術を行なったがん患者の退院後の外来診療を地域の医療機関(原則的には紹介医)と連携して行なう。
- * **【かかりつけ医の役割】**
- * 計画病院の作成したパスに則った診療を行う。可能な範囲での投薬および検査、専門的治療の必要性などに対応する。
- * **【がん診療連携拠点病院の役割】**
- * かかりつけ医と情報交換しながらパスに則り節目の診察を行い、専門的な検査や手術を実施する。緊急の要請があった場合は必要な対応を行う。

がん拠点病院



地域の医療機関(かかりつけ医)



受診報告書で患者の情報交換

緊急要請

かかりつけ
薬局



節目の診療

患者用パス
を持参

日々の診療

患者用パス
を持参



患者

がんパス患者の治療連携イメージ

子宮頸部上皮内がん(CIS)術後 連携パスについて

子宮頸部上皮内がん(CIS)とは？

I 子宮頸がんの進行分類→0期(がんが上皮に留まっているもの)

II ほとんどが子宮頸部の異常な組織を取り、子宮を温存する子宮頸部円錐切除術で治癒する。

子宮頸部上皮内がん術後パスの対象患者

1. 子宮頸部円錐切除後であること。(切断した断端が陰性である)
2. 告知済であること。
3. 術後1ヶ月検診で異常がないこと。

*退院後の患者の受診について

1. 患者が持参するもの

- ◆子宮頸部上皮内がん術後連携パス(CIS)連携医療機関用(原本)
- ◆子宮頸部上皮内がん術後連携パス(CIS)患者用(原本)
- ◆診療情報提供書(原本)
- ◆患者受診報告書(連携医療機関記載用)

2. 連携医療機関で実施していただくもの

1. 膣洗浄を開始(退院後1ヶ月週2回)
 2. 手術を行なった年は3ヶ月ごと、翌年は半年ごと、その翌年からは1年ごとに連携医療機関を受診する。
 3. 毎回診察時には、内診とスメア、また、必要に応じて経膣エコーを実施
 4. 大阪医科大学附属病院受診(退院後1ヶ月目と1ヶ月半ごろの2回を受診)
- * ※特に異常がない場合は、この受診以降に大阪医科大学附属病院を受診していただく必要はありません！連携医療機関で定期受診をお願いいたします。
- * 但し、大阪医科大学附属病院を受診する必要があると判断された場合は、連携医療機関から婦人科・腫瘍科外来に直接電話をお願いいたします。(患者に指示した場合、受診しない場合も想定されます)

診療報酬算定

B005-6がん治療連携計画策定料と B005-6-2がん治療連携指導料

- * **がん治療連携計画策定料**＝**がん診療連携拠点病院**で算定する。
がんの治療目的に初回に入院した際にパスに沿って治療を行なうことについて、患者の同意を得た上で、パスに基づく個別の患者ごとの治療計画を説明し、患者や家族に文章で提供した場合に算定（750点1回のみ）

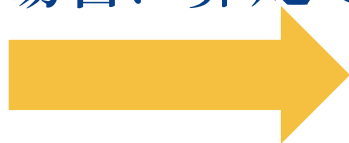


がん治療連携指導料＝**がん治療を連携する医療機関**で算定する。

- ① 治療連携計画策定料をがん診療連携拠点病院で算定した患者。
- ② パスに基づいた治療を行なうことの同意を得ていること。

がん治療連携指導管理料の算定について

1. 計画策定病院に患者に係る診療情報を文書により提供した場合に算定できる(月に1回300点)



受診報告書を活用して簡単に！

2. 計画策定病院を患者が受診しなくても算定可能
3. 治療方針などの相談・変更が必要になった際の情報提供を行なった場合でも算定可能(但し、診療情報提供書料は別途算定出来ない。)

がん術後パス患者の流れ(イメージ)

- 大阪医科大学附属病院を退院

CIS術後パスを作成する。患者用パス、連携医療機関用パス、受診報告書を患者に渡し、連携医療機関に持参するよう説明する。

①

下記を実施すれば300点が算定できる！

大阪医科大学附属病院を受診の際に受診報告書、医療者用パスを記載し、患者に渡す。

- 連携医療機関を定期受診する(受診の月毎に**連携指導料(300点)**が算定可能、但し、受診報告書を記載して、大阪医科大学附属病院へ送る必要が有る)

②

- 大阪医科大学附属病院を受診

医療者用パスと診療情報提供書を記載し、連携医療機関を受診する際に持参してもらう。

③

上記②～③の運用を繰り返す。患者手帳は患者自身が記載するものとし、自覚症状などの記載が無い場合は受診時に確認する。連携医療機関を受診する際は、患者手帳+医療機関用パス+受診報告書(連携側で記載する)を患者が持参する運用。

子宮頸部高度異型性(CIN3)術後連携パスについて

* 対象患者

1. 子宮頸部円錐切除後であること。(切断した断端が陰性である)
2. 病名説明済であること。
3. 術後1ヶ月検診で異常がないこと。

* パスの種類

CIN3術後連携パス

*大阪医科大学附属病院を退院後の患者の受診について

《初回に患者が持参するもの》

- ◆ CIN3術後連携パス(原本)
- ◆ CIN3術後連携パス(原本)
- ◆ 診療情報提供書(原本)
- ◆ 受診報告書(連携医療機関記載用)

2. 連携医療機関で実施していただくもの

1. 膣洗浄を開始(退院後1ヶ月週2回)
 2. 手術を行なった年は3ヶ月ごと、翌年は半年ごと、その翌年からは1年ごとに連携医療機関を受診する。
 3. 毎回診察時には、内診とスメア、また、必要に応じて経膣エコーを実施
 4. 大阪医科大学附属病院受診(退院後1ヶ月目と1ヶ月半ごろの2回を受診)
- * ※特に異常がない場合は、この受診以降に大阪医科大学附属病院を受診していただく必要はありません！連携医療機関で定期受診をお願いいたします。
- * 但し、大阪医科大学附属病院を受診する必要があると判断された場合は、連携医療機関から婦人科・腫瘍科外来に電話で受診予約を入れていただくようお願いいたします。(患者に依頼した場合、受診しない場合も想定されます)


* 子宮頸部上皮内がん術後連携パス (CIS)
診療報酬300点が算定出来る。

*  診療報酬300点が算定出来る。

* 子宮頸部高度異型性上皮 (CIN3) 術後連携
パス

 診療報酬算定は出来ない。

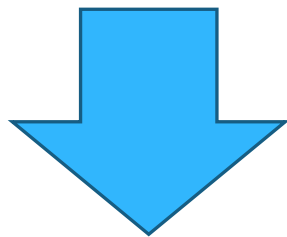
* ※類似のパスなので注意



施設基準届出の簡素化

「がん治療連携指導料」を算定するにはどうするのか？

H24年4月の医療改定から、がん診療連携拠点病院が、連携する医療機関をとりまとめて近畿厚生局に届出が出来るようになり、届出が簡素化された。



- * がん治療を連携する医療機関は、連携先となるがん診療連携拠点病院に、引き受けるがん種を申し出するだけでよい。

本院のホームページのがんセンター、がん診療地域連携パスのコーナーからダウンロードできますので、活用してください。

ご協力をよろしくお願いいたします。

